

持続可能な社会の探究Ⅰ 生命・医療・衛生

保健体育科 佐藤 健太
理科(生物) 葛西 陽菜

1. はじめに

本講座では、生命・医療・衛生に関連するグローバルな諸課題について探究活動を行った。主に1学期には、生徒が多角的な視点で探究活動を実践できるよう、フィールドワーク（以下、FW）や専門家による講義を企画して支援した。具体的には、お茶の水女子大学の四元淳子助教による「遺伝子疾患と遺伝カウンセリング」、東京医科歯科大学の貫井陽子准教授による「蚊媒介感染症とその対策」、JICA 国際協力員の萩原明子氏による「母子手帳から始まる平和な社会の形成」の講義を実施した。FWでは4月にJICA 地球ひろばにおいてSDGsに関する講義と施設見学、5月には国立健康・栄養研究所において「健康寿命の延伸や健康格差の縮小に向けた取り組み」の講義と施設見学、目黒寄生虫館において寄生虫研究の歴史や標本の展示見学を行った。10月には希望者対象で東京大学医科学研究所を訪問し、東京大学の内丸薫教授による「HTLV-1（ヒトT細胞白血病ウイルスⅠ型）の感染によって起こるATL（成人T細胞白血病）の研究」の講義と、研究室の見学を行った。

夏休みにはプレ論文の執筆を課した。これは昨年度の反省を活かし、生徒が自身の探究テーマを多角的に捉え、2学期以降の探究活動の方向性を定めることをねらいとしたものである。1学期の学習をふまえ、探究テーマに関連する書籍を2冊以上読んで執筆するよう指導したところ、事後のアンケートでは後々の探究活動に効果的であった声が聞かれた。

2学期以降は、探究テーマの具体化や修正を行い、グループ単位で書籍、インターネット、FW、アンケート調査等による情報収集をさらに進めた。得られた情報をまとめ、冬休みには本論文を執筆し、課題解決のために有効なアプローチについて、考察を深めた。

3学期には年間の探究活動の総まとめとして、成果物の作成、探究成果の発信や啓発活動に取り組み、それらを講座内発表会で共有した。発表会では探究活動の成果や取り組みに対する相互評価を実施した。またグループ単位で執筆した本論文を講座論文集としてまとめたものを配布し、相互に論文を読み合った。

2. 本時の活動

2.1. 午前の部

2年生「持続可能な社会の探究Ⅰ」の各講座代表生徒による成果発表を大学講堂にて行った。本講座からは「インフォームドコンセントの普及に向けて」というテーマで代表生徒3名が発表を行った。

2.2. 午後の部

講座ごとに分かれて、探究活動の進め方に関する1・2年生間の意見交換を行った。参加者は、今年度本講座を受講した2年生22名（1名欠席）、次年度本講座を受講する1年生20名の合計42名であった。午後の部の流れは以下の①～③の通りである。

① 2年生代表グループによる、探究成果の発表（計4グループ）

発表内容はそれぞれ「終末期医療における意思表示の重要性」「幹細胞や再生医療における現状と展望」「衣服と健康」「東京オリ・パラリンピックと感染症対策」であった。

② 1・2年生間の意見交換（探究活動の心得の伝達）

昨年同様、1・2年生混合の7～8人ずつ6班を編成し、班ごとに10分間×2タームの意見交換を行った（タームごとにメンバーの入れ替えを実施）。その際、2年生は1年生へ4つの項目（探究テーマ設定について・FWのコツ・成果物の形態の工夫・1学期にすべきこと）を必ず伝えること、1年生は必要に応じて適宜メモをとり、質問や相談を行うことを指導した。

③ ワークシートを用いた本時の振り返り

3. まとめと今後の課題

午後の部では、昨年度先輩から助言を受けた2年生が、今回は後輩である1年生に助言を与える立場となり、比較的スムーズに情報提供ができていた。また1年生も今後の探究活動をより質の良いものにするために積極的に質問を投げかけてメモをとるなど、和やかかつ活発な意見交換に参加する姿が見られた。

異学年交流の効果を測定するために、ワークシートを用いて本時の取り組みを5段階で自己評価（5が最高値）させた。1年生においては、「自分なりの疑問や課題に感じていたことを解消することができた」に対する回答平均値は3.90、「意見交換を通じて探究の具体的なイメージをもてた」に対する回答平均値は3.95であった。自由記述欄にも、「インターネットの情報に頼らない重要性を感じた」「調査に終わらずに実行にまで移すために、見通しをもって活動したい」といった気づきや、「(FWにおいて)大学病院の予約を取るのには困難であることが分かり、別のアプローチを考えたい」などの具体的な指針を得たコメントも見られた。2年生では、「意見交換を通じて1年間の取り組みを振り返ることができた」に対する回答平均値は4.17であり、「探究IIに先立ち、自分の取り組んできた内容を振り返るよい機会になった」「見通しを持って活動することやメンバー間の意思疎通の重要性は探究IIでも同じだと思った」などと、来年度の『持続可能な社会の探究II』に向けた前向きな記述が見られた。

一方で、2年生のコメントの中に、「自分の反省が、去年先輩から伺ったアドバイスと同じで、今日のような機会を活かせなかったのが残念」というものも見られた。1年生が本時の取り組みで得た気づきが、今後1年間の探究活動に充分活かされるために、担当教員による指導上の工夫や配慮が、今後の課題といえる。